

都市再生整備計画 事後評価シート

(添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式 1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式 1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況 (完成状況)
- 添付様式 2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式 2-② その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標) により計測される効果発現の計測
- 添付様式 2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式 3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式 3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式 3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式 4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式 4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式 4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式 5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式 5-② まちの課題の変化
- 添付様式 5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式 5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式 5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式 6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式 6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称 (当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式 7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式 8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式 9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式 1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●	—	—	—
B. 目標を定量化する指標	●		—	指標として「観光イベントの参加者数」を追加	当初、関連事業としていた観光交流センターを都市再生整備計画の基幹事業に設定したことから、評価を行う指標として追加した。
C. 目標値		●	—	—	—
D. その他		●	—	—	—

添付様式 1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

（金額の単位は百万円）

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影 響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	成東駅南口駅前広場	460.4	A=3,600㎡	618.9	A=3,600㎡	・工事費高騰による事業費増額 ・事業期間の延伸	影響なし	●	
道路	市道和田東町線	121.0	L=350m,W=8m	105.3	L=425m,W=10m	・幅員及び延長変更等を行い、 一部 別事業に組替 ・事業期間の延伸	影響なし	●	
道路	市道新町殿台線	145.0	L=360m,W=8m	184.6	L=360m,W=10m	・幅員変更等による事業費増額 ・事業期間の延伸	影響なし	●	
地域生活基盤施設	防災施設整備	8.0	防火水槽 1箇所 消火栓 2箇所	-	-	関連事業に組替	影響なし	-	
	成東駅前自転車駐車場再整備 総合案内板、施設サイン	-		106.9	A=1,300㎡、570台 案内版1基、施設サイン1基	・駐輪場再整備を関連事業から 基幹事業に組替 ・駅前施設を拡充	影響なし	●	
高質空間形成施設	成東駅南口駅前広場	-		118.5	舗装、点字ブロック等	関連事業から基幹事業に組替	影響なし	●	
高次都市施設	(仮称) 成東駅前観光交流センター	-		65.7	床面積197.36㎡ 木造2階建て	関連事業から基幹事業に組替	影響なし	●	
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業（都市再生）									
住宅市街地総合整備事業									

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影 響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
事業活用調査	事後評価分析アンケート調査	4.0	住民アンケート	4.0	住民アンケート	実施時期を変更	影響なし		●
まちづくり 活動推進事業	地域住民向けまちづくり活動の支	25.0	まちづくり活動支援	25.5	まちづくり活動支援	実績を踏まえた軽微な変更	影響なし	●	

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
(都) 成東駅南口線整備事業		成東駅南側周辺地区	1,410.0	1,410.0	-	-	-	県事業
成東駅前駐車場再整備事業		成東駅南側周辺地区	50.0	-	平成25年度～平成27年度	-	-	基幹事業に振替え
観光交流センター整備事業		成東駅前	60.0	-	平成25年度～平成27年度	-	-	基幹事業に振替え
JA本所脇歩道整備		成東駅南側周辺地区	25.0	25.0	平成25年度～平成26年度	平成25年度～平成26年度	完了	
観光マップの作成		成東駅南側周辺地区	1.0	1.0	平成27年度	平成27年度	完了	
防災施設整備		成東駅南側周辺地区	-	3.0	-	平成24年度～平成27年度	完了	

添付様式 2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考) ※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値 (エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
			基準 年度		基準 年度		目標 年度		モニタリング	事後評価	数値	モニタリング	事後評価	あり	なし
指標 1	%	平成30年10月実施の地区周辺住民に対するアンケート調査により、駅前広場の利用しやすさについて、5択の中から満足又はどちらかといえば満足と回答した割合を算定	-	-	8.8	平成23年度	45.9	平成29年度	モニタリング	-	-	モニタリング	-	-	●
									事後評価	確定 見込み	●	40.0	事後評価		
指標 2	回	地区内で住民が参加するまちづくり系の勉強会・ワークショップ等の開催回数を計測	-	-	1	平成23年度	20	平成29年度	モニタリング	-	-	モニタリング	-	-	○
									事後評価	確定 見込み	●	94	事後評価		
指標 3	%	平成30年10月実施の地区周辺住民に対するアンケート調査により、駅周辺の防犯・防災対策について、5択の中から満足又はどちらかといえば満足と回答した割合を算定	-	-	5.0	平成23年度	29.0	平成29年度	モニタリング	-	-	モニタリング	-	-	●
									事後評価	確定 見込み	●	26.3	事後評価		
指標 4	%	平成30年10月実施の地区周辺住民に対するアンケート調査により、徒歩・自転車での移動のしやすさについて、5択の中から満足又はどちらかといえば満足と回答した割合を算定	-	-	8.8	平成23年度	39.8	平成29年度	モニタリング	-	-	モニタリング	-	-	●
									事後評価	確定 見込み	●	34.2	事後評価		
指標 5	%	平成30年10月実施の地区周辺住民に対するアンケート調査により、駅周辺の快適性について、5択の中から満足又はどちらかといえば満足と回答した割合を算定	-	-	5.2	平成23年度	39.0	平成29年度	モニタリング	-	-	モニタリング	-	-	●
									事後評価	確定 見込み	●	34.3	事後評価		
指標 6	人	平成29年度に成東駅前で開催された観光イベントの参加者数を計測	-	-	0	平成26年度	80	平成29年度	モニタリング	-	-	モニタリング	-	-	○
									事後評価	確定 見込み	●	94	事後評価		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標 1	目標値にはやや達していないものの、従前値からは満足度が4.5倍に向上しており、一定の事業効果が認められる。	地区周辺部で別途事業による道路整備が完了していない中で事後評価を行っている。
指標 2	街の活性化に対する危機意識から、まちづくり系の会議が期待以上に開催された。	-
指標 3	目標値にはやや達していないものの、従前値からは満足度が5.2倍に向上しており、一定の事業効果が認められる。	地区周辺部で別途事業による道路整備が完了していない中で事後評価を行っている。
指標 4	目標値にはやや達していないものの、従前値からは満足度が3.8倍に向上しており、一定の事業効果が認められる。	地区周辺部で別途事業による道路整備が完了していない中で事後評価を行っている。
指標 5	目標値にはやや達していないものの、従前値からは満足度が6.5倍に向上しており、一定の事業効果が認められる。	地区周辺部で別途事業による道路整備が完了していない中で事後評価を行っている。
指標 6	イベントの核となる観光交流センターの竣工が平成29年12月8日にずれ込んだが、利用客・イベント参加者が増え、目標を達した。駅前整備とあいまって事業効果が認められる。	-

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
			基準年度		基準年度		モニタリング	事後評価	数値		
その他の数値指標1 駅前広場の利用しやすさの改善度	%	事業を行う7年前と比較した場合の5択のアンケート調査において、無回答を除いた回答のなかで、良くなった及び、どちらかといえば良くなったと回答した割合を評価値とした。	-	-	-	平成23年度	モニタリング			指標1を補完するものとして、事業実施前との比較により主観的な考えを把握できる。	
							事後評価	確定 ●	67.9		
その他の数値指標2 駅周辺の防災・防犯対策の改善度	%	事業を行う7年前と比較した場合の5択のアンケート調査において、無回答を除く回答のなかで、良くなった及び、どちらかといえば良くなったの割合を評価値とした。	-	-	-	平成23年度	モニタリング			指標3を補完するものとして、事業実施前との比較により主観的な考えを把握できる。	
							事後評価	確定 ●	46.6		
その他の数値指標3 徒歩・自転車での移動のしやすさの改善度	%	事業を行う7年前と比較した場合の5択のアンケート調査において、無回答を除く回答のなかで、良くなった及び、どちらかといえば良くなったの割合を評価値とした。	-	-	-	平成23年度	モニタリング			指標4を補完するものとして、事業実施前との比較により主観的な考えを把握できる。	
							事後評価	確定 ●	58.7		
その他の数値指標4 駅周辺の快適性の改善度	%	事業を行う7年前と比較した場合の5択のアンケート調査において、無回答を除く回答のなかで、良くなった及び、どちらかといえば良くなったの割合を評価値とした。	-	-	-	平成23年度	モニタリング			指標5を補完するものとして、事業実施前との比較により主観的な考えを把握できる。	
							事後評価	確定 ●	57.4		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

-

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
地域住民向けまちづくり活動の支援	予定どおり実施した ●	成東駅南側周辺まちづくり協議会への支援として平成24年度から平成29年度まで各年度6回実施した。	駅前整備のハード面での事業は一段落し、まちづくり協議会の活動は終息したが、ソフト面も含めた官民協働での持続的な組織づくりを検討する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(都市再生整備計画事業事後評価庁内検討会議)	事業に関わる部署(土木課、市民課)	平成30年12月6日	都市整備課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2		指標6					
指標名		まちづくり勉強会等の開催回数		観光イベントの参加者数					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	成東駅南口駅前広場	○	「成東駅南側周辺まちづくり協議会」を始め、「あじよすっ会」の活動も活発であり、当初の見込みを大幅に上回った。	○	観光交流センターの完成が平成29年12月と遅くなったが、駅前整備が進んだことにより利用客やイベントの参加者が増え、目標を達成した。				
	市道和田東町線	—		—					
	市道新町殿台線	—		—					
	成東駅前自転車駐車場再整備 (仮称)成東駅前観光交流セン	○		◎					
提案事業	事後評価分析アンケート	—		—					
	地域住民向けまちづくり活動の支	◎		○					
関連事業	(都)成東駅南口線整備事業	—		—					
	JA本所脇歩道整備	—		—					
	観光マップの作成	—		○					
	防災施設整備	—		—					

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	観光交流センターを住民活動の場としても活用していく。	観光交流センターを活用して、市としてもイベントの企画等を行い、にぎわい演出を図る。		
-------	----------------------------	---	--	--

添付様式 4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標 1			指標 3			指標 4			指標 5		
指標名		駅前広場の利便性に対する満足度			駅周辺の防災・防犯対策への満足度			徒歩・自転車での移動のしやすさ			駅周辺の快適性		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	成東駅南口駅前広場	△	整備がなされ、指標の数値も大きく上昇しているが、周辺幹線道路の整備が完了していないこと、また、住民の期待と整備内容の間に大きな差があったこともうかがえ、目標値に及ばなかったと考えられる。	IV	△	住民に対して、整備内容や防災・防犯対策のPRが十分に浸透していなかったことが要因と考えられる。	IV	△	評価1と同様、指標の数値も大きく上昇しているが、周辺幹線道路の整備が完了していない部分があり、目標に及ばなかったと考えられる。	IV	△	駅周辺の商業系施設が不足している事が評価値につながっていると考えられる。	IV
	市道和田東町線	△			△			△					
	市道新町殿台線	—			△			△					
	成東駅前自転車駐輪場再整備	△			—			△					
	(仮称)成東駅前観光交流セン	△			△			—					
提案事業	事後評価分析アンケート	—		IV	—		IV	—		IV	—		IV
	地域住民向けまちづくり活動の支	—			—			—					
関連事業	(都)成東駅南口線整備事業	△			△			△			△		
	JA本所脇歩道整備	△			△			△					
	観光マップの作成	—			—			—					
	防災施設整備	—			×			—					

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 —：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な

改善の方針 (記入は必須)	住民アンケートによる意見を精査し、不足する事項の改善を目指す。、公共交通のネットワーク化を図り、駅前に面して利便施設等の誘致を促す。	本事業による防災・防犯対策の内容を住民へ十分な理解を促すとともに、今後、警察官立ち寄り所を検討するなど、防災設備の充実化を図るとともに、住民参加による防災・防犯対策のイベント等を企画検討していく。また、市では順次防犯カメラの設置を進めており、そのことをPRすることにより犯罪抑止効果も望める。	成東駅南口線等周辺道路整備を継続して進める。また、徒歩・自転車の動線確保として、道路マーキング等を検討する。	道路等公共施設整備の進捗により、駅周辺の商業活性化や観光振興に資する民間の活力に期待する。
------------------	--	--	--	---

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的組織(都市再生整備計画事後評価庁内検討会議)	事業にかかわる部署(土木課、市民課)	平成30年12月6日	都市整備課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
駅周辺部では、成東駅と主要道路である国道126号間のアクセスが悪く、主な道路に歩道が設置されていないなど、自動車利用が増加した中でまちの安全性・利便性が低下している。このため、地区住民・駅利用者が安全・快適にまちを利用できるための対応が必要である。	駅南口駅前広場が拡充整備、関連する市道整備により駅周辺の道路網が改善された。国道からのアクセス道路の一部が改善された。	<ul style="list-style-type: none"> ・国道126号の渋滞解消 ・成東駅周辺へのアクセス道路の整備の推進 ・きめ細かな道路網及び交通対策 	駅送迎のためのスペース確保など住民アンケートで出された意見・要望 (本事業化前は、駅前が無秩序な路上駐車も見受けられ、ある意味自由に駐停車されていた)
郊外店との競争や後継者不足等により、駅周辺部では空き店舗や低未利用地が増加しつつある。また、人口減少も進んでおり、「歩いて暮らせるまちづくり」を目指していく中で、まちの空洞化に歯止めをかける必要がある。	観光交流センターや駅前広場、歩道整備による駅前活性化と歩ける街づくりのための基盤が整備された。	<ul style="list-style-type: none"> ・商業活性化や観光振興のさらなる展開 ・空き店舗対策等 ・観光交流センターを活用したイベントの拡充 ・民間活力への期待 	—
今後もまちなかで安心して暮らしていけるために、地域の連携や災害時対策など、居住環境の魅力を強化する必要がある。	防災施設の整備や避難路等の道路基盤整備	災害時に避難体制等の基盤整備と合わせたソフト対応	防災・防犯対策や施設整備状況の住民への周知

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	住民まちづくり活動の持続	住民参加による協働のまちづくりを継続する。	まちづくりシンポジウムの開催等
	観光イベントの更なる充実	魅力ある街として発信するためのきっかけ作りを住民が主体となっ て行い、行政は側面支援を行う。	フォトゲーニング(街なかオリエンテーリング)などの開催

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	駅送迎のための駐車スペースや歩行者・自 転車通行への配慮対応	駅前広場における送迎車の利用実態を把握し、ニーズに沿った利用方法 を検討する。併せて、公共交通のネットワーク化を図り、歩行者及び自転 車動線も状況に合わせて柔軟に検討する。	駅前広場利用促進整備事業
	商業活性化 観光交流センターの活用	道路等公共整備の進捗により、民間活力に期待する。 市としてもイベントの企画等を行い、山武市内外住民の交流人口の増大を 図る。 山武ならではの魅力を活かしたまちづくりイベントや特産品の開発を更に 進める。	空き店舗対策検討事業 観光イベント・市民交流促進事業 特産品開発等
	住民への周知と参加による防災・防犯対策 体制の構築	防災・防犯施策を住民に周知し、理解を得るとともに、今後も防災設備の 充実化を図る。また、緊急時などに対応できる市と住民の協働による体制 づくりを目指す。	警察官立寄り所の設置検討 防災・防犯協議会等の組織づくり検討

ノオローノツノメは次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
PDCAによる 事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む現時点では予定無し。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成31年1月4日～17日	平成31年1月4日～17日	担当課への窓口受付、電話、ファックス、メール	都市整備課
広報掲載・回覧・個別配布	広報で原案の閲覧場所を案内	平成31年1月1日号	平成31年1月4日～17日		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	窓口閲覧(都市整備課)	平成31年1月4日～17日	平成31年1月4日～17日		

住民の意見	特になし				
-------	------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	中谷正人(成東駅南側周辺まちづくり協議会 座長)	平成31年 1月 24日	都市整備課	山武市社会資本総合整備計画事後評価委員会 設置要綱	新たな組織
その他の委員	海保幹夫(山武市区長会連合会 会長) 小川千洋(山武市景観審議会 委員) 佐藤一彦(山武市観光協会 事務局長) 大高衛(成東駅前あじよすっ会 会長)				

審議事項※1	委員会の意見	
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	方法書に従って、事後評価が適正に実施されたことが確認された。
	成果の評価	指標による評価結果は妥当であり、適正に実施されたことが確認された。
	実施過程の評価	実施過程の評価は妥当であると確認された。
	効果発現要因の整理	効果発現要因の整理は妥当であると確認された。
	事後評価原案の公表の妥当性	事後評価原案の公表方法は妥当であると確認された。
	その他	今後、同様な評価を行う場合には、アンケート調査だけに頼らず、物理的な数量や数値で比較することが必要とされた。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	今後のまちづくり方策の作成は適正に実施されたことが確認された。
	フォローアップ	—
	その他	まちづくり方策に掲げる事業を展開して行くには、住民の力が必要となり、観光イベント等に様々なアイデアを募ることが必要とされた。また、防災防犯体制には、地域の消防団との連携も考えられる。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	特になし。	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。